

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Preconception Dietary Inflammatory Index and Risk of
Gestational Diabetes Mellitus Based on Maternal Body Mass
Index: Findings from a Japanese Birth Cohort Study

和文タイトル:

体格に基づいた妊娠前の食事性炎症指数と妊娠糖尿病発症の関
連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Nutrients

年: 2022 DOI: 10.3390/nu14194100

筆頭著者名: 経塚 標

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

本研究では、妊娠前の食事性炎症性指数と妊娠糖尿病の発症の関連について検討することを目的としました。

方法:

エコチル調査の参加者のうち、単胎妊婦を対象としました。妊娠前の食事摂取については食事調査票で把握し、その内容から、炎症をもたらす食事(向炎症食)の程度について食事性炎症指数(Dietary inflammation index: DII)を計算しました。この指数に基づいて、参加者を4グループに分類し、妊娠前の Body Mass Index (BMI)を母体の体格指数としてさらに5グループ化しました。それぞれのグループにおける妊娠糖尿病の発症リスクを比較しました。

結果:

エコチル調査参加者のうち 90,740 人が解析対象者となりました。解析の結果、妊娠糖尿病の発症リスクは妊娠前 BMI が高いほど上昇することが明らかになりました。一方妊娠前の食事炎症性指数との関連については、妊娠前 BMI が 23.0 以上 25.0 未満の妊婦では、妊娠前食事炎症性指数が高いほど妊娠糖尿病のリスクが上昇する事が明らかになりました。

考察(研究の限界を含める):

妊娠糖尿病の発症には生活習慣が関連しています。今回の結果により、妊娠前 BMI が高い事自体妊娠糖尿病のリスクとなる事が明らかになりましたが、食習慣による発症リスクも妊娠前 BMI に依存することが明らかになりました。これは、妊娠前の食習慣と体重コントロールの重要性を示すものと思われます。本研究の限界としては、エコチル調査においては、妊娠中の妊娠糖尿病発症予防指導については評価困難であることです。

結論:

妊娠前の食習慣の改善により、妊娠糖尿病の発症リスクを下げられる可能性が示唆されましたが、その効果は妊娠前 BMI に依存することが明らかになりました。